

研 修 報 告

報告日 令和3年7月27日

会 派 名	公明党
報告者氏名	真貝維義 若井恵子
種 別	□調査研究 (□行政視察) ■研修会 □要請・陳情 □各種会議
用 務	鳥獣被害対策研修会「鳥獣被害の現状と対策について」
日 時	令和3年7月13日(火) 13:00~15:00
場 所 (会場)	柏崎市役所 2階 委員会室
概 要	<p>【講師】 山本 麻希 先生 ・国立大学法人 長岡技術科学大学准教授 ・NPO法人 新潟ワイルドライフリサーチ副代表 ・㈱ういるこ代表取締役社長 ・環境省 鳥獣保護管理プランナー</p> <p>【講演内容】 1. イノシシの生態と被害 イノシシの生態 体重は50kg~150kg 昼行性、時速50キロ 繁殖特性：増加率が高い(1.64倍) イノシシ被害：①農作物被害 ほぼ水稲被害、 ②生活被害 のり面崩壊、ゴミを荒らす ③交通被害 ④人身被害 人を襲う</p> <p>2. イノシシの被害対策 野生動物被害対策の3本柱 ①被害駆除 電気柵などで被害を減らす直接的管理 ②個体数管理 野生動物の数の管理し、被害を減らす直接的管理 ③生息地管理 集落周辺の草刈りなど間接的管理</p> <p>3. 中型獣類の生態と被害対策 特定外来生物：ハクビシン、アライグマ 全国でのアライグマの被害が増加しており、地域からの根絶を目指した徹底的な捕獲を実施しなければならない。 結論 対策は順番とバランスが重要であり、始めに防除、生息地管理、最後に捕獲が安定するが、捕獲には人材育成も必要。地域性を見極めて住民、行政、専門家が一緒に考え、対策に着手する。</p>

所感等

【真貝維義】

イノシシは増加率が 1.64 倍、新潟県は水稻被害が 98%であり、今後の対策が急務であり、電気柵は有効であるが適正な管理が必要である。個体数を減らす捕獲は猟友会任せに等しい。猟友会も高齢化しており、今後の捕獲者の養成が急務であり、行政だけでなく関係者の協力体制が必要と考える。また個体数の増加とともに人的被害も増えている点からも被害防除・個体管理・生息地管理に対する対策が必要である。今後の野生動物被害は外来種で特にアライグマの被害が全国的に拡大している。新潟県はすでに糸魚川市で確認率 79%で上越市は定着率が 51%であることから早晚、柏崎市にも被害が拡大すると考えられる。外来種の実態調査とそれに基づいた対策が急務と考える。

【若井恵子】

近年、柏崎市においてイノシシ被害が増加している中で、イノシシの生態や対応策についての研修はたいへん有意義であった。直接的防除である電気柵は設置後の維持管理が大切であり、定期的に診断するなど電気柵が有効な設計で施工され管理が十分になされているかが重要である。耕作放棄地など動物にとって魅力的な環境をなくすことも重要な対策である。現状の認識を市民、行政、専門家が一緒になって学び、何をしなければならないかを考えていかなければいけないと感じた。また、捕獲については猟友会頼みであるが、高齢化が進んでいることから人材育成が必要と考える。また特定外来生物であるアライグマの生態も学び、そのアライグマの実態が西日本から上越市まで確認がなされていることについてまずは市民への周知が必要である。